



年間第 28 主日 (ルカ 17:11-19)

あなたの生活があなたを救う信仰であれ

「自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。」(17・15) イエスは確実に十人全員をいやしたのですが、サマリア人で、「外国人」扱いされている一人だけが、「ほかの九人」とは違う何かに気付いてイエスのもとに戻ってきました。ほかの九人が気付かなかったものとは何だったのでしょうか。

懐かしい思い出があります。高校の化学(かがく・ばけがく)の授業で「化学式」について先生が説明しているときでした。水(H₂O)とか、そういうのを黒板に書いているときに、何かの化学式を展開しながら、「この化学式に当てはまるものが近くにある。君たちには見えるか？」と先生が尋ねるのです。

40年くらい前の話なので、実際に黒板に書かれた化学式は思い出せません。先生がこう続けました。「ヒントをあげよう。外の景色を見てごらん。」言われて生徒が皆、外の景色を眺めたとき、私はあることに気付いて景色を見るのをやめました。

すると先生がすぐに反応します。「中田、なぜ外の景色を見るのをやめたのだ？君には何かが見えたから景色を見るのをやめたのか？」そこで私はこう言いました。「先生が仰りたいのはガラスのことですね。」

ネットで調べると、ガラスの70%を占める主成分は「ケイ酸」で、「ケイ素・酸素・水素」の化合物です。そういう化学式が書かれてあったのかも知れませんが、化学式はまったく私の頭に入りませんでした。たまたま私は、先生が求めている答えを見つけ出したのでした。

いくらか、今日の奇跡物語の参考になったでしょうか。物語に登場している十人は、間違いなく「重い皮膚病」という「病(やまい)」から快復したのですが、イエスが気付いてほしいものは別にあったのです。奇跡の向こうにあるもの、人間のお世話では与えてもらえないものを与えられた。そこに気付いたのは十人のうちの一人、ユダヤ人から嫌われていたサマリア人だったのです。

イエスはこのサマリア人と同じく、「神を賛美するために戻って来た者」(17・18)に、「あなたの信仰があなたを救った」と声をかけます。私たち人間は、この世にあってさまざまなものを与えられて生きています。そのほとんどが、与えられても消えて無くなってしまいうこの世限りのものです。

しかし、実は消えて無くならないものも与えられています。人間は体と魂を持っていますが、魂は神が与えたものです。ほかにも、自由意志も神が与えたものです。人間には、この世が与えることのできるものと、神しか与えることのできないものと、両方が必要なのです。

大声で神を賛美しながら戻ってきたサマリア人は、この病からの快復が、神から与えられたものであることに気付いたのです。物語の中でイエスがなされたことと言えば、「祭司たちのところに行って、体を見

せなさい」(17・14)と言われた、それだけでした。

イエスはこの世のものは何も与えなかったのです。しかし十人全員がいやされた。彼らは二通りの反応をしたのです。九人は「喉元過ぎれば熱さ忘れる」で、いやされた原因が何かを忘れて、有頂天になって家族の元に戻り、元の生活を始めました。ところが一人は、見えるいやしの向こうにあるものに気付き、自分が今あるのはイエスのおかげであると理解し、戻って感謝したのです。

「あなたの信仰があなたを救った。」(17・19)私は違う言い方もできると思います。「あなたの生活があなたを救った。」多くの人が見えるもの、感じられるものだけに価値を置いて生きていますが、十分の一の人は、見えるものの向こうにある見えないものに価値を置いています。

金曜日に病人訪問に回っていて、稲刈りを待つ田んぼが目に留まりました。収穫する人は、きっと喜びに沸くと思いますが、その時「お米ありがとう」と感謝するのでしょうか。私だったら「神様ありがとう」と感謝するでしょう。

収穫の実りを見て、多くの人はいやされた「お米ありがとう」と言うかも知れませんが、しかし私たちキリスト者は、その中の一人であったサマリア人のように「神様ありがとう」と感謝したいものです。

日々の生活の中で、イエスに感謝と賛美をささげる生活を選ぶ人はごく一握りかも知れませんが、それでもあえて「わたしが今あるのはイエス様のおかげ」と言い切れる「十人のうちの一人」になりたいのです。なぜなら、「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」と言ってもらえたのは、あえて狭い道を選んだサマリア人だからです。